

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500696		
法人名	有限会社ケア・ポートヒロタ		
事業所名	グループホーム サルビア レッド		
所在地	福岡県宮若市宮田41番地5		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果確定日	令和2年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和2年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月2回の提携医療機関の医師による往診、週1回の医師による回診、歯科往診等、医療・介護の両面で安心した生活が送れるようサポートを行っている。  
 新型コロナウイルス感染拡大により、これまでと異なる対応を強いられているが、さまざまな予防策を実践し、あらゆる感染症予防に役立っている。  
 また、地域に根付いたスーパーや地元物産店で季節ごとの食材を購入し、家庭的な料理を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホームサルビア レッド**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各ユニット内に掲示されており、常に意識したサービスを提供するよう努めている。また、年に一度全体会議を実施し、新人職員にも意図を理解出来るよう説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで地域行事(盆踊り・山笠・神社祭り)等に参加していたが、2月以降、新型コロナウイルス感染拡大により、各種行事が中止となった。また、面会制限中であり、現在は地域の方との交流が殆ど無い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い認知症の話や状態などの説明を行っていた。2月までは通常通り開催していたが、4月以降はスタッフのみでの開催を継続中。結果を書面にまとめ、関係各所に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や行事等の報告を行い、地域の方より意見を頂き参考にしている。また、外部研修に参加したスタッフは、どのような内容で何を学んだかを発表した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者の出席を頂き情報交換を行っている。広域連合や福祉事務所の担当からご意見をうかがうこともある。4月以降は施設関係者のみでの開催である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、運営推進会議・ユニット会議で「身体拘束をしない取組み」について報告している。身体拘束をやむなく行う場合の三原則「切迫性」「非代替性」「一時性」はあるが、あくまでも身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「GHみやわか」において毎年研修が行われており、当スタッフも出席して意識向上・防止に努めている。また、身体的・心理的なストレスを解消出来るよう休暇をとり、支援にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もいらっしゃる。契約時にパンフレット等の書類を準備し、説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に書類を用意し、ご家族へ細かく説明を行っている。 但し、遠方在住だったり、高齢であるなどの事情により、十分な理解・納得を得ることが難しくなってきた。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の重症化により、御本人の意見を確認することが難しくなってきた。 ご家族にはサービス担当者会議や来所時、電話報告時に意見・要望を尋ねており、運営に反映させている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの定期的な会議、全体会議を実施し、意見・提案を述べる機会を設けている。 また、個別に意見を聞く機会を設け、些細な内容も改善できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情や条件に見合った労働時間、体制を整えている。 また、親睦会を行い、働きやすい職場づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては、性別・年齢・資格等を問わず広く門戸を開いている。定年制も撤廃し70歳以上の職員も働いている。 資格取得希望者については、勤務体制を調整するなど、その実現に向けた協力体制を整えている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の研修に参加している。 その後ホーム内でも研修を実施し、内容を職員全体に教育・啓発している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染拡大により、2月以降外部研修の参加機会が減っているが、内部研修を実施し、スタッフ間で意見交換するなどスキルアップを図っている。また、OJT・OFF-JTを取り入れた研修を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全国グループホーム協議会やGHみやわかの勉強会等で交流をはかり、情報交換することによってサービスの向上ができるように努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、思いの把握に努めているが、緊急な入居や独居により、事前情報の把握が困難な方が増えている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活状況や現在困っていること、入居後の要望を聞き、必要な支援を割り出している。また、その内容を具体的に説明し、理解して頂けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報をもとにサービスを計画・立案し、支援しているが、急な入居や家族との関係が希薄な方など、入居後に必要なサービスの見極めをする事もある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な支援策ばかり計画せず、日常の細かい内容(簡単な家事など)で共に支え合う関係を築けるようにしている。 しかし、近年では重症化により、全面的にケアが必要な方が増えてきた。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来所時などに、日々の様子や思いを報告し、情報を共有している。家族の高齢化や遠方在住により、外出や受診の協力を得られない場合が増えている。電話や手紙で日々の様子を報告する事も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来、面会・外出・外泊は自由であるが、新型コロナウイルス感染拡大により、予防目的で2月より制限中である。短時間のガラス越しでの面談やテレビ電話を使った通話を行っている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の性格や関係を把握し、リビングでの座席配置や交流の橋渡しを行っている。また、近年は集団での活動より、個人や少人数で過ごす傾向も増えており、御本人の希望に沿った対応をとっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居後も、ご家族様の了解を得て、お見舞いに行くなどしている。また、相談があった場合には適切なアドバイスができるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や会話から、利用者の思いや意向をくみ取るようにしている。それらを把握したのちにカンファレンスを実施・検討し、最善のサービス提供へと繋げている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族からこれまでの生活歴を尋ねている。また、入院中の場合は、病院からの情報も参考にしている。入居以降も日々の会話の中からも把握するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や言動を個別経過記録に残し、生活パターンやADL・IADL、心身状態を把握・共有できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者に担当職員を配置し、日常の細かい状況や課題把握に努めている。御本人を含めた関係者で、定期的なカンファレンスやモニタリングを実施し、介護計画を作成し同意を得ている。また、心身状況に変化が生じた場合は、その都度見直しを行い、内容を変更してきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別経過記録等に、日々の様子や介護計画の実施状況を詳細に記録している。また、各勤務時間帯ごとに申し送りを実施し、情報の伝達と共有を図っている。その中に介護計画の見直しを必要とする事案があれば、ミニカンファレンスを行い、変更している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に合わせ、食事の形態など個別対応している。また、訪問診療や訪問看護での定期的な点滴も実施したり、家族の事情で受診困難な場合、他市への受診支援も行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の重症化により、外出支援が困難となってきた。防災・避難訓練の実施、各種地域行事等、当施設への訪問を通じ、地域の方とふれあう機会を設けている。2月以降はコロナ禍により、軒並み中止となっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の往診(2週間に1度)を受けている。この他に希望するかかりつけ医があれば、要望に答えている。訪問歯科とも連携し、希望時に往診を受けている。緊急時に対応が出来る協力体制を整えている。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常時勤務しておらず、提携医療機関の看護職員や医師に密に連絡を取り、報告している。 必要に応じて受診し、適切な医療を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医の指示を仰ぎ、情報交換を行っている。退院後の環境変化による混乱を防ぐため、病院へ訪問していたが、現在はコロナ禍の為、電話連絡している。その際、担当医師や看護師から経過を確認し、退院後の対応を話し合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」のマニュアルを作成し、入居時に説明をしている。心身の状態変化に伴い、本人や家族の思いを把握するとともに、施設で可能なケアを詳しく説明している。 さらに提携医療機関や職員と協議の上、十分に話し合いを重ね、ステージごとに意思確認を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、それに沿った対応(バイタル・疼痛の有無確認、意識確認等)で家族、管理者、主治医へスムーズな連絡・報告する訓練を徹底している。また、2月までは外部の研修にも参加していた。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「災害時マニュアル」を作成し、食料や飲料水などの備蓄品を常備している。消防署の協力を得て避難訓練を行い、定期的な設備点検も実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴・排泄は、プライバシーに配慮した空間づくりを行っている。 また、プライドを傷つけないよう丁寧な言葉で会話するよう努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の重症化により、明確な意思表示や自己決定できる方が少なくなってきた。 職員から分かりやすい言葉で提案するなどの働きかけをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定時の日課活動(ラジオ体操・口腔体操等)は習慣となっており、自発的に参加される。 普段はリビングや居室で自由に過ごされており、その日の気分や状況に沿った支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自分で整容出来ずに介助を要する方も増えているが、気分に合わせて整髪や化粧を楽しませている。 コロナ禍による外出制限中であり、定期的な訪問美容室の利用にてカットされている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣のスーパーや商店で食材を購入・使用し、季節感のある食事を提供している。また、日頃からリクエストを募り、献立に取り入れる等「食べる喜び」を感じられる内容を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック・カロリー計算を行い、栄養状態の把握に努めている。健康状態や体重に合わせて提供量を調節したり、摂取量が少ない方は、ゼリーなどの補食やお好きな物も提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをし、職員が近くで見守りする。必要な方へ介助も行う。状態により、訪問歯科を利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレへの声かけ・誘導を行っている。 入居者の重症化に伴い、トイレでの排泄が困難な方も増えている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力での排便を促すため、積極的な水分摂取や、バナナなど便秘に効果的な食材を日々の食事に取り入れている。便秘症の方は、医師に相談の上、内服薬によるコントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調にあわせて入浴実施している。個浴・シャワー浴・全身清拭等、利用者の負担を十分に考慮している。肢体不自由な方は、職員2名で実施し、清潔保持に努めている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に利用者の希望を優先しており、睡眠や休息のタイミングは個人差がある。体調がすぐれない時は、日中でも臥床を促す場合があり、状況に即した対応をとるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を用法別に色分けしている。また、「服薬チェック表」を作成し、介助した職員が記名している。この他服薬時に本人確認をし、ミスがないよう努めている。処方箋はファイルに綴り、すぐ閲覧できる。病状に変化がある場合は、提携医療機関へ連絡し、医師の指示を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人や御家族から過去の趣味や好きな事を聞き、入居後も個別に楽しんで頂けるようにしている。(習字やパズル、ちぎり絵などの趣味)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大により、現在は外出支援は行っていない。制限前までは、スタッフ付き添いにて少人数で出かける等の支援をしていた。現在は利用者の重症化に伴い、ユニット単位での外出は困難になってきた。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な方数名のみ、所持して頂いている。職員が定期的に金額の確認をしている。個別支援で買い物に行かれた時は、その中から支払いをして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はその都度対応するが、御家族と疎遠であったり、近しい方も高齢であるなど、電話や手紙をやりとりする方は減少している。スタッフが電話をかけて御本人と変わるなどの支援は行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保ち、カーテンやエアコンなどの空調設備を活用し管理している。また、花瓶に季節の花を生けたり、自作の物(習字やパズル)を掲示している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと洋室があり、集団や個人で好きなように過ごされている。親交のある方同士がリビングで談話したり、一緒にレクリエーション活動などされる時もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より長年使い慣れた家具や寝具等を持参され、居心地の良い空間づくりに努めている。このほか人形や写真などの置物も持参され、居心地良く過ごせるよう、工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札や、トイレ・浴室に目印をつけて、認知症があっても場所を理解できる工夫をしている。また、居室ベッドから外へ出るまでの動線や家具の配置も考慮し、自立した生活が送れるよう工夫している。		